

fure-fure

1回生・2回生:バスハイク



1回生:看護学への誘い



4学年交流会



2回生:治療援助論の演習



3回生:懇話会



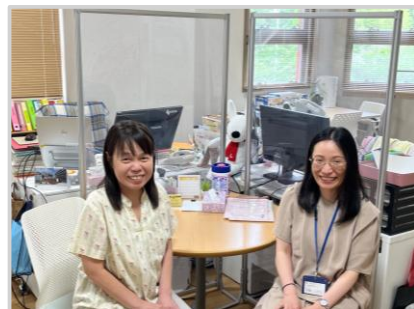
4回生:災害看護実践論



■ 学部生へのメッセージ ～健康管理センターのご案内～

健康管理センター長 島本 亮 教授

学生が大学生活を送る中で、健康面や生活面、精神面についてご心配される場面もあるかと思います。入学式の際にも、「持病があり、一人暮らしが心配です」といったお声をいただきましたが、こうした不安は新入生に限らず、学年が進み、講義・実習・就職活動・人間関係などが変化する中でも生じ得るものです。健康管理センターでは、体調不良時の相談、健康診断後のフォローに加え、不安、気分の落ち込み、睡眠や生活リズムの乱れなど、心身の不調に関する相談にも対応しています。学生が一人で抱え込まず、早めに相談できる場所として、健康管理センターを活用していただければ幸いです。保護者の皆様にも、大学内に支援の窓口があることを少しでも安心材料としていただければと思います。池キャンパスの健康管理センターには看護師・保健師資格を持ったスタッフ2名が常駐しています。



▲ 健康管理センターのスタッフ

■ 新任教員のご挨拶



石川 麻衣 教授 【広域看護分野・地域看護学】

2026年4月より、広域看護学講座・地域看護学教授として着任いたしました。私はかつて本学で講師として学生の皆さんと学びを共にしており、このたび9年ぶりに戻ってまいりました。懐かしさとともに、再び本学の教育に携われることを嬉しく感じています。

高知に戻ってから、かつての学生が実践や教育研究の場で活躍していることを耳にする機会が増えました。その姿に触れるたびに励まされ、在校生の皆さんのこれからの成長がいつそう楽しみになっています。

私は「健康づくり」と「健康危機管理」を主な研究テーマとし、平時も有事も人々が健康で安心して暮らせる地域づくりを看護の機能・役割から探究してきました。こうした視点を教育にも活かし、学生の皆さんが地域とともに学び成長できる機会を増やすとともに、私自身も皆さんと一緒に学び続けたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



高山 良子 特任准教授 【看護臨床分野・成人看護学】

このたび、成人看護学・がん看護学領域に着任いたしました高山良子と申します。本学大学院で学んだ日々は、今振り返っても私にとって本当に幸せな時間でした。その学びの場で、教員として教育・研究に携われることを大変ありがたく思っています。専門はがん看護です。これまで、がん看護の教育・研究に携わりながら、地域で生活するがん患者さんご家族への看護実践も大切にしてきました。患者さんやご家族、そして学生の皆さんとの出会いの中で教えていただいたことを、これから出会う方々へ大切に伝えないでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



井上 加奈子 助教 【広域看護分野・在宅看護学】

私はこれまで在宅看護専門看護師として高知県内での訪問看護活動を行っていました。縁あって令和6年度より高知県中山間地域等訪問看護師育成講座（今年4月から高知県訪問看護師育成講座に名称変更）の特任助教として高知県内の新卒・新任期の訪問看護師育成に携わることになり、今年度より在宅看護学領域の助教との兼任となりました。在宅療養される方々の『住み慣れた地域で最期まで暮らしたい』という思いを支えるためには地域・在宅で働く看護職の存在が欠かせません。学生の皆さんのもつ力を活かし、地域・在宅で活躍する看護師・保健師・助産師・養護教諭になってもらえるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

■ 各学年の大学生活

1回生 学年担当 青木・岩崎



1回生が入学してから3か月がたちました。学生たちは教養教育科目や看護の基礎科目を学びながら、少しずつ大学生活に慣れてきています。4月には「新入生のつどい」としてのいち動物公園へのバスハイクに参加しました。はじめは緊張した様子でしたが、散策や交流を通して打ち解け、学友とのつながりを深める機会となりました。今年度は新たにチューター制が導入され、教員が学修面や学生生活について継続的に相談できる体制を整えています。また、6月には1回生オリエンテーション講義を実施し、大学生活や健康管理、今後の学修について考える機会を設けました。当日は4回生も先輩として参加し、自身の経験を交えながら学修や学生生活について話してくれました。これから前期試験や後期のふれあい看護実習を迎えます。さまざまな学びや経験をを通して成長し、看護職への第一歩を着実に歩んでくれることを期待しています。

2回生 学年担当 小澤・木下



2回生が企画した「新入生のつどい」が4月21日に開催され、1回生と新任の先生方とともに「のいち動物公園」へバスハイクに行きました。企画した委員は参加者が楽しめるよう話し合いを重ね、準備してきました。当日はグループで園内を散策しながら交流を深めることができ、笑顔あふれる1日となりました。学業では、それぞれの講義や演習の内容がより専門性の高いものとなってきました。たとえば「治療援助論」という科目では、褥瘡ケアや注射など治療場面における援助技術を学びます。演習では振り返りの時間を大切にしており、単なる技術の習得にとどまらず、常に根拠を考え、患者さんにとって安全・安心なケアとは何かを考える力を育んでいます。授業の予習・復習に苦労している声も聞かれますが、それぞれに工夫して自己学習に取り組む、勉学とサークル活動やアルバイトなどの両立できるよう頑張っています。8月には、はじめての病院実習となる「看護基盤実習」があります。これまで学んだ知識・技術を患者さんへのケアに繋げられるよう、日々学習に取り組んでいきます。

3回生 学年担当 村川・石川



3回生は専門科目が大幅に増え、看護過程の展開や看護技術の習得、事例を用いた演習やグループワークなど、より実践的な学びに取り組んでいます。教員へ積極的に質問したり、復習に取り組んだりしながら、主体的に学修を進めています。また、選択科目では自身の興味や関心に応じた科目を履修し、それぞれの関心領域における学びを発展させています。後期には領域看護実習が始まるため、これまで学んだ知識や技術を臨床で活かせるよう、学習内容の整理や専門的な看護技術の習得を進め、実習に向けた準備を行っています。学修面だけでなく、4学年交流会、懇話会、サークル活動などを通して、コミュニケーション能力や協調性を育んでいます。また、キャリア支援行事やキャリアデザインシートを活用して自身の将来像や目指す職種について考えを深めています。3回生は、看護の基礎を着実に築きながら、学びと経験を通して大きく成長しています。

4回生 学年担当 畠山・瓜生



4月に入り、4回生は授業と並行して、就職活動や看護研究を進めています。近年、就職活動の時期はどんどん早くなってきています。学生は希望する進路に進むために、授業の終わった夕方から2時間の小論文ゼミ（自主ゼミ）に参加したり、面接練習に臨んだりと入念に準備を進めてまいりました。5月からは国家試験対策模擬試験の取り組みも開始しております。まもなく、家族看護実習を皮切りに4回生の実習がスタートし、秋まで病院や地域、在宅の場で看護実践を学びます。忙しい日々を送りながら頑張る4回生をどうか見守り、応援してください。

■ 教育の工夫

「4回生による看護技術学修サポーター」

看護基盤分野 基礎看護学 瓜生 浩子 教授

看護学部では様々な看護技術を学びますが、2023年度より、演習の際に4回生に参加し、学びを刺激し支援する役割を担ってもらい「看護技術学修サポーター」制度を運用しています。サポーターとして登録した4回生には、後輩と一緒に技術のポイントを確認すること、学びやすい雰囲気づくりをすること、実習経験を活かした実践的なアドバイスをすることを依頼しており、低学年の受講生にとって身近なロールモデルや相談しやすい存在となっています。また、4回生にとっても学び直しや自身の成長を実感する機会となっており、双方にとっての意義が生まれています。今後も学年を超えて学び合う機会を積極的につくことで、学修へのモチベーションを高めていきたいと考えています。



「チューター制の取り組み」

看護学部 学生委員長 久保田 聡美 教授

本学看護学部では、2026年4月より「チューター制」を導入いたしました。本制度では、教員が少人数（約10名）の学生を担当し、学期ごとの面談を通して学修状況や生活面の様子を丁寧に把握し、継続的な支援を行います。履修や学習方法の助言に加え、学生生活への適応や悩み相談にも対応し、必要に応じて学内機関と連携します。早期の課題発見と適切な支援につなげることで、学生が安心して主体的に学びを深められる環境づくりにつながると考えております。

これまでの学年担当（3名で約80名に対応）と新しい体制の両方を経験している学生に意見を聞いてみると、相談できる教員が増えたイメージを持てたようです。また、教員の立場からも学部全体で学生を支援している雰囲気があると好評です。なお、これまでの学年担当の良い面は残して、前年度担当していた教員も残っているため、支援の継続性は担保していますのでご安心下さい。まだ、始まったばかりの新体制ですが、より良い仕組みにするためにも気になることやお気づきのことがあれば、遠慮なくご意見をお寄せください。

▶ ご意見・ご感想はこちらから https://www.u-kochi.ac.jp/form/detail.php?sec_sec1=4&check

■ 学生の活動 ～4学年交流会を開催して～

(3回生 リーダー：石原・サブリーダー：木原・安達・メンバー：大塔・竹葉・高見・富永・山下・山村・横山)

4月21日の創立記念日に、学年を越えた学生同士の交流を目的に、看護学部3回生の全学年交流委員が中心となり「4学年交流会」を開催しました。交流会では、1～4回生で構成された混合グループに分かれ、学内を巡るチーム対抗のビンゴゲームを行いました。交流会を通して、先輩学生から授業や実習、学生生活について話を聞く機会があり、参加した学生にとっては今後の大学生活を具体的にイメージする貴重な時間となりました。特に入学したばかりの1回生にとっては、新たな学びや将来の姿を知るきっかけとなり、不安の軽減にもつながったようです。また、協力しながらビンゴゲームに参加する中で自然と会話が生まれ、休み時間に学年を超えて話したり連絡を取り合ったりするなど、交流の広がりが見られました。今回の交流会を通して、学年間のつながりの大切さを改めて感じる機会となりました。今後もこのつながりを大切にしながら、互いに支え合い、学びを深められる環境づくりにつなげていきたいと考えています。4学年交流会の企画・運営を担当し、終始和やかな雰囲気の中で盛会に終えることができ、うれしく感じました。



▲ チーム対抗ビンゴゲーム

次回は2027年2月の掲載予定です。